

令和6年度 自己評価書及び学校関係者評価書

学校教育目標

「より良いものを求めて創り出す生徒の育成」

・意思の強い生徒 ・心身の健全な生徒 ・知性と感性の豊かな生徒

教育方針

(スローガン)「すべての子どもたちが安全で、安心できる学びの場所としての学校に」
～いつか誰かの役に立つ自分づくり～

1. 生徒の主体性を大切にした多様な学び～「何ができるようになるか」を支える教育
2. 生徒が主体となり、協働する授業実践
3. 信頼される学校づくり
4. チームによる学校づくり

今年度の重点

札幌市の包括的な重点

- 1 さっぽろっ子「学び」のススメの活用
- 2 「小中一貫した教育」の推進
- 3 ICTを活用した教育の推進

明園中学校のキーワード

- 1 キャリア教育の推進
- 2 防災教育を含めた危機管理意識の徹底
- 3 小中一貫した教育～9年間の支援体制の構築

1. 豊かな人間性の育成（自己肯定感、自己有用感の醸成）
2. 確かな学力のはぐくみ（将来の社会的・職業的自立の基盤となるキャリア教育の推進）
3. 健やかな心身の育成（心身の健康保持、教育相談機能の充実）
4. 特別支援教育の充実（小学校との引継ぎの円滑化による9年間の連続した支援体制の構築）
5. 信頼される学校づくり（防災、不審者対応における危機管理意識の徹底）
6. 「働き方改革」の意識化

自己評価及び学校関係者評価

ア. 自己評価

(別紙、左側)

・上記、今年度の重点1～6に沿って、今年度の取組と成果、及び次年度に向けての改善の方策についてまとめています。

- ①【達成状況】A：十分である B：概ね十分である C：不十分である …のABC評価
- ②【成果と改善の方策】今年度の具体的な取組や成果、また、残された課題に対する次年度の取組への改善の方策について既述

イ. 学校関係者評価

(別紙、右側)

学校関係者評価委員会 3月5日(水) 14:00～校長室で実施

・本校の学校評議員(2名)および評価委員(2名:前PTA会長・現PTA会長)4名による2つの観点による評価をお願いします。

【観点】

①【自己評価の適切さ】

自己評価の「達成状況(ABC評価)」と、その具体を記載した「成果」について、
A：適切に評価されている B：一部適切ではない C：適切な評価とは言えない

②【改善策の適切さ】

達成されなかった課題に対する「改善の方策」の記述について

A：方策が適切である B：一部不十分である C：改善の方策が不十分である

【学校関係者評価委員による意見】

・上記の「学校関係者評価(ABC)」の理由や取組へのご感想やご意見、期待することなどを自由に記述してください。次年度の取組の際の参考とさせていただきます。

自己評価及び学校関係者評価

分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
知・徳・体の調和のとれた育み	確かな学ぶ力の育成	「分かる、できる、楽しい授業」づくりと生徒の「主体的・対話的で深い学び」	B	学習環境、わかりやすい授業等、一般的に高評価だが、計画性をもった主体的・自主的な学習習慣の確立や定着に課題が残る。➤主体的、自主的な面を育てるためにも学習習慣の確立が必須であり、「キャリア教育」の充実や小中の一層の連携を図る。	A	A ⁻
		生徒が伸びを実感し次の目標をもてる指導と評価の工夫	A	生徒自らが伸びを実感する授業展開と学習支援を継続して行っている。生徒が次への課題を意識した学習の取組となるよう「見通し」と「振り返り」をもたせ、「学び合い」により理解を深化させ、視野を広げていく。➤次年度も継続。	A	A
		学習に困り感をもった生徒への支援	B	以前より継続して TT 授業や学びのサポーターを活用した取組を行っているが、生徒個々の困り感の多様化への対応に課題がある。➤個別最適な学習の実現に向け、計画的な教育相談、一人一台端末・オンライン授業・支援人材の活用等の支援の充実に努める。	A	A
	豊かな人間性の育成	他者を尊重し、より良く生きようとする道徳教育の充実	B	ローテーション道徳など全員での「道徳授業」の充実を図り、教育活動を行っているが、未だ生徒の自己有用感等の自己承認の感度が低い傾向にある。➤生徒一人一人が「大切にされている」と実感できる人間尊重の教育をパートナー校と共に推進していく。	A	A
		いじめを許さない命を大切にす指導の充実	A	「きめ細やかな指導」を基本に、いじめの未然防止や早期発見を重視する指導や、命を大切にす講演会などの啓蒙活動、いじめ把握時の迅速かつチームとしての対応により成果をあげている。➤次年度も継続。	A	A
		朝読書や生徒会活動、部活動等、全教育活動を通しての豊かな人間性の育成	A	生徒会活動を充実させ、概ね目標を達成する活動を実施することができた。ボランティア活動としての地域清掃・除雪を生徒会が中心となり実施した。➤次年度も生徒が主体となり、本物の体験ができるよう、充実した活動を模索し続けたい。	A	A
	健やかな体の育成	自ら進んで運動に親しみ、楽しいと感じる運動の機会の提供	A	体育委員会を中心に休み時間の運動の奨励や体育祭を企画・実施、体育の授業ではニュースポーツを競技に取り入れる等、活動の充実や運動機会の拡充ができた。➤次年度も継続	A	A
		発達段階に合わせた保健指導・栄養指導の充実	A	栄養教諭による食の工夫、保健体育や家庭科の授業の他、外部の専門家による「命の授業」「薬物乱用防止」などの講演会、行事の機会を活用しての学び等、充実した取組ができた。➤次年度も継続	A	A
		食の指導からアレルギー対応まで、健やかな体を育む指導の充実	A	小学校との引継ぎ、家庭との詳細な確認により万全を期するアレルギー対応や「健やかな体育成プログラム」に基づく各種の取組を充実させることができた。➤次年度も小中間や家庭との連携を密に継続	A	A

学校関係者 評価委員に よる意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人皆違う素晴らしい個性をもっている。他者の「命」も大切に「仁」の心もち続けてほしい。 ・時代が進み便利な世の中ではあるが、子どもたちは圧倒的な経験不足の弊害がある。学んだことを振り返り、自身に落とし込む努力が必要であろう。 ・保護者や地域も学校と同じようにビジョンをもつ必要があると思う。自己評価は厳しめではあるが、現状に満足することなく上を目指す姿勢はよい。 ・日々の経営組織、教育課程、意識改革の視点から主体性と同僚性を喚起する手立てを共有していただきたい。 ・教職員に対しても常に人間尊重の意識をもち、教職員一人一人も「自分が大切にされている」と実感できる学校を目指し、教職員の「声を聴く」ことが求められているように感じる。 				
分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
個に 応じた 支援の 充実	生徒一人一人に合わせた合理的配慮の検討と的確な支援	A	「学びの支援委員会」での情報共有とサポートファイルを活用した支援の方向性の確認を要とし、ハートピアの活用やSC、SSW、教育支援センターを含む外部機関と連携し、年間を通して細やかな支援の模索を継続できた。また、相談支援パートナー、学びのサポーターの運用により、ニーズに沿った効果的な支援もできた。➤丁寧で的確な支援を継続	A	A
	キャリアパスポートも活用した小中高の連携による切れ目のない支援	A	学びや成長を記録した「キャリアパスポート」の活用や異校種間（小中、中高）での丁寧な引継ぎにより、学習面・生活面共に、よりの確かな生徒の個別支援を継続することができた。➤次年度も継続	A	A
学校関係者 評価委員に よる意見	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携を図りながら、子どもも教職員も学び合い、一人一人の個が輝き、協働する学校づくりを推進されていることが認められる。日々の可能な限りの支援に感謝する。 ・キャリアパスポートが成長を気付かせるものの一つになっているのは素晴らしい。また、目標や目的などのビジョンをもってしっかり書けるのも素晴らしい。 				
信頼される 学校づくり	安全・安心な学びの場所としての学校、学年、学級づくり	A	防災教育の充実（年3回の様々な状況を想定した実践的な避難訓練、消防署と連携した防災スクールの活用等）、危機管理マニュアルの見直しや施設設備の点検修理等を実施。万が一に備えながら命を大切にする教育を推進し、落ち着いた学びの環境を維持できた。他にも避難所運営研修や5町内合同避難訓練に参加し、地域の安全に寄与した。➤防災訓練を情性で行うことのないように心構えをしっかりと持たせたい	A	A
	学校・生徒・保護者・地域・関係機関5者をつなぐ社会に開かれた教育の推進	B	ホームページや各種お便り等での情報発信、授業公開やPTA集会、小中連携（小中学校教諭による授業見学や小学校6年生が中学訪問による学校説明会や授業見学、小学校6年生を合唱コンクールへ招待）、除雪ボランティアの継続など、確実に実施することができた。➤次年度はコミュニティー・スクール導入に向け、さらに「社会に開かれた教育」「小中一貫した教育」を充実させたい	A	A

<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明園小（パートナー校）との小中連携が進んでいることは好ましい。 ・多くの大人の目がある環境の中で、地域人材を活用した教育活動があるとよい。 ・引き続き、確かな専門性と豊かな人間性、そして鋭い先見性をもって、よりよい学校経営の実現に向けて、各視点から各教諭の役割と指導性の更なる究明に取り組んでいただきたい。 				
<p>働き方改革 し、生徒主体 の視点からの より質の高い 教育を目指す</p>	<p>生徒主体の視点から の働き方改革</p>	<p>C</p>	<p>生徒の見守りと育成のための時間をより多く確保するために、働き方改革への様々な工夫（ICT活用、印刷物精選、教育課程の見直し等々）を継続。超勤時間削減等の成果をあげる一方で、効率化や縮減に馴染まない業務もあることから、超過勤務の実態も少なからず残っている。➤過労による重大なミスの無いよう、業務の平準化を図り、教師も生徒もウェルビーイングな職場を目指す</p>	<p>A⁻</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師はスーパーマンではないので、しっかりと体と心を休む時には休み、業務の効率化を図ってほしい。 ・子どもたちが将来先生になりたいと憧れるような先生の仕事のやりがい・姿が見れたらよいと感じる。 ・子どもの明るい未来のために、豊かで幸せな人生のために、役立つ仕事がしたいという子どもの幸せを希求する思いを引き続き大切にしつつ、ポジティブな感情や認識に働きかけ、自律的な心の動きに働きかけられることを大切にしてほしい。また、ウェルビーイングな職場となるよう応援したい。 ・「働きやすさ」と「働きがい」の両立、助け合える環境が向上するように期待する。 				

※最終の学校関係者評価は、評価委員4名全員がA評価=A、一人でもB評価=A⁻、二人以上がB評価=B、と表記。